



## ～忙しくも居心地の良い毎日～

「とんでもないところに来ちゃったな」。これが作業療法学科に入学してすぐの、私の感想でした。まず、入学して初めに待ち受けるのが、人間の基本的な構造に関する学問です。手にはどんな骨があるのだろうか？どんな筋肉が肩を動かしているのだろうか？関節はどうして曲がるのだろうか？私は思わず面食らってしまいました。進行が早い上に情報量の多い授業、飛び交う専門用語、膨大な数の課題。余裕のあるカリキュラムの中で、自由な大学生活を送っている旧友を羨ましく思いながら、学校生活を送っていました。

そんな中、忙しい日々を乗り切る支えとなる存在が私には3つありました。1つ目は、精神・心理に関する授業です。作業療法学科の授業は、身体に関する科目のみではありません。自分とはどんな人間なのだろうか？コミュニケーションを上手にとるには？しぐさにはどんな意味が隠されている？普段、当たり前に行っていることや、見過ごしてしまっている感情に、改めて焦点を当て深めていく授業は新鮮で面白く、学んだ知識をもとに自分自身を分析してみたり、家族や友人を観察してみたりと、授業の内容を学校以外での生活の場で試し、フィードバックすることが、いつしか楽しみになっていました。

2つ目は、所属しているダンスサークルの存在です。学校の小体育館を使って、週に2回のペースで活動しています。入学式や学園祭、オープンキャンパス、七夕、クリスマスといったイベントがある時には、お客さんを招いて踊ります。部員数は100名を超える大きなサークルで、貴重な他学科生との交流の場となっています。人前で踊ることは、初心者にとっては恥ずかしく、いつも緊張してばかりでしたが、経験を重ねる中で、音楽に乗ることの楽しさや、声援を受けることの気持ち良さを体感し、今では次のイベントが来るのを心待ちにしています。普段は会うことのない他学科の友人と、にぎやかな雰囲気を楽しむことのできる大切な場所です。

3つ目は、アットホームな学科の雰囲気です。作業療法学科は1学年約40人の小さな学科です。必修科目が時間割の多くを占めるため、学校でのほとんどの時間を同じ学科の40人と過ごします。4、5人のグループで1つの課題に取り組むグループワークでは、夜遅くまでディスカッションをしたり、実技試験の前には、セラピスト役と患者役に分かれて、学校の無い休日にも練習をしたりします。そして、グループワークの課題が完成した時や、試験を終えた時には打ち上げ会を開き、お互いをねぎらい、盛り上がります。苦楽を共にした友人に囲まれ、「つらい！」と叫んだら「俺もー！」と返ってくる環境が、“忙しいだけの毎日”を、“忙しくも居心地の良い毎日”にしてくれたように思います。

作業療法学科は決して“楽しい”だけの学科ではありません。課題や試験に追われ、睡眠時間が削られることも珍しくないところです。他大学で自由に過ごす旧友を羨ましく思い、入学したことを後悔する時も少なからず訪れると思います。しかし、作業療法学科は“楽しい”だけでない代わりに、“充実した”時間をくれる学科であると思います。入学して1年半が経ち、いよいよ実際に病院や施設にて行われる臨床実習に臨むこととなります。責任は重くなり、これまで以上に苦しく、辛い日々が待っていると思うと不安でなりません。しかし、どんなこれからの日々も、私の3つの支えが、“忙しくも居心地の良い毎日”にしてくれるように思います。そして、「とんでもないところだったなあ」と思いながら卒業するのが、今の私の夢です。



作業療法学科 9期生 能戸夏月